

青森県経済統計報告

平成 29 年 2 月 3 日

企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（平成 29 年 1 月 1 日現在）…………… 1

県人口	1,291,205 人（対前月 1,007 人減少）
自然動態	819 人減少（出生者数 666 人、死亡者数 1,485 人）
社会動態	188 人減少（転入者数 920 人、転出者数 1,108 人）

2 本県の経済動向（平成 28 年 11 月・12 月の経済指標を中心として）

（1）経済概況

本県経済は、緩やかに持ち直している。
景況感（青森県景気ウォッチャー調査結果）をみると、現状判断DIは前期比4.1ポイント増加の47.3となり、先行き判断DIは現状判断DIより高い48.8となった。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向 …… 2
・平成 28 年 11 月の**青森県鉱工業生産指数**（平成 22 年=100）は、季節調整済指数が 118.9 で、前月比 6.8%の上昇となり、2 カ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は 124.5 で、前年同月比 13.1%の上昇となり、6 カ月連続で前年同月を上回った。
- (2-2) 雇用労働 …… 3
・平成 28 年 11 月の**定期給与**は 219,950 円で前年同月比 1.2%増となった。**総実労働時間**は 155.2 時間で前年同月比 0.5%減、**所定外労働時間**は 12.1 時間で前年同月比 0.8%減となった。
・平成 28 年 12 月の**有効求人倍率**（季節調整値）は 1.18 倍で、前月を 0.04 ポイント上回った。
・**雇用保険受給者実人員**は 5,878 人で、前年同月比 11.7%減となった。
- (2-3) 物 価 …… 5
平成 28 年 12 月の**青森市消費者物価指数**（平成 27 年=100）は、総合指数が 100.2 となり、前月比 0.3%の上昇、前年同月比 0.7%の上昇となった。また、食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数は 100.5 となり、前月と同水準、前年同月比 0.1%の上昇となった。
- (2-4) 個人消費 …… 6
・平成 28 年 12 月の**百貨店・スーパー販売額**は、全店舗ベースが 178 億円で前年同月比 1.0%減となり、3 カ月ぶりに前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比 1.0%減となり、2 カ月ぶりに前年同月を下回った。
・平成 28 年 12 月の軽自動車を含めた**乗用車新車登録・届出数**は 2,773 台で、前年同月比 1.0%増となり、3 カ月連続で前年同月を上回った。
・平成 28 年 12 月の**観光入込客数**は、主な観光施設が 575 千人で前年同月比 8.6%増となり、2 カ月ぶりに前年同月を上回った。また、主な宿泊施設は 104 千人で前年同月比 1.1%減となり、2 カ月連続で前年同月を下回った。
- (2-5) 建 設 …… 7
・平成 28 年 12 月の**新設住宅着工戸数**は 534 戸で、前年同月比 1.3%減となり、3 カ月ぶりに前年同月を下回った。
・平成 28 年 12 月の**公共工事請負額**は 47 億 6,300 万円で前年同月比 19.2%減となり、2 カ月ぶりに前年同月を下回った。
- (2-6) 企業倒産 …… 8
平成 28 年 12 月の**企業倒産**は、件数は 2 件で前年同月比での増減はなかった。負債総額は 3 億 8,900 万円で前年同月比 194.7%増となった。

（3）景気動向指数CI（平成 28 年 10 月分）…………… 9

先行指数	107.6（前月を 15.6 ポイント上回り、2 カ月ぶりに上昇した）
一致指数	153.0（前月を 1.9 ポイント上回り、3 カ月ぶりに上昇した）
遅行指数	114.1（前月を 1.3 ポイント上回り、2 カ月ぶりに上昇した）

（4）青森県景気ウォッチャー調査（平成 29 年 1 月期）…………… 10

3 カ月前と比べた景気の現状判断DI	…47.3(前期比 4.1 ポイント増、6 期連続で 50 を下回る)
3 カ月後の景気の先行き判断DI	…48.8(前期比 0.6 ポイント増、3 期連続で 50 を下回る)

1 青森県の推計人口（平成29年1月1日現在）

【概況】

平成29年1月1日現在の本県推計人口は、1,291,205人で、前月に比べ1,007人の減少となった。

○自然動態

出生者数が666人、死亡者数が1,485人で、819人の減少となった。

○社会動態

転入者数が920人、転出者数が1,108人で、188人の減少となった。

総人口の推移

(単位：人)

	総数	性別		対前月増減率	増減数	自然増減数	自然増減数		社会増減数	社会増減数	
		男	女				出生者数	死亡者数		県外からの転入者数	県外への転出者数
昭 45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平 2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10.1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
27.10.1	1,308,265	614,694	693,571	-	-65,074	-	-	-	-	-	-
28.1.1	1,305,721	613,506	692,215	-0.070%	-910	-782	724	1,506	-128	1,052	1,180
28.2.1	1,304,593	612,919	691,674	-0.086%	-1,128	-889	777	1,666	-239	912	1,151
28.3.1	1,303,392	612,373	691,019	-0.092%	-1,201	-881	662	1,543	-320	1,088	1,408
28.4.1	1,297,378	609,235	688,143	-0.461%	-6,014	-740	743	1,483	-5,274	3,828	9,102
28.5.1	1,297,165	609,299	687,866	-0.016%	-213	-715	711	1,426	502	3,450	2,948
28.6.1	1,296,266	608,773	687,493	-0.069%	-899	-731	707	1,438	-168	1,254	1,422
28.7.1	1,295,463	608,413	687,050	-0.062%	-803	-641	689	1,330	-162	1,126	1,288
28.8.1	1,294,831	608,132	686,699	-0.049%	-632	-532	716	1,248	-100	1,637	1,737
28.9.1	1,294,209	607,941	686,268	-0.048%	-622	-641	803	1,444	19	1,752	1,733
28.10.1	1,293,681	607,729	685,952	-0.041%	-528	-594	742	1,336	66	1,478	1,412
28.11.1	1,293,130	607,473	685,657	-0.043%	-551	-677	758	1,435	126	1,353	1,227
28.12.1	1,292,212	607,074	685,138	-0.071%	-918	-802	711	1,513	-116	1,002	1,118
29.1.1	1,291,205	606,638	684,567	-0.078%	-1,007	-819	666	1,485	-188	920	1,108

12月中の人口動態の推移

(単位：人)

年月		平18.12	19.12	20.12	21.12	22.12	23.12	24.12	25.12	26.12	27.12	28.12
自然動態	出生者数	786	769	813	781	742	732	742	738	680	724	666
	死亡者数	1,289	1,303	1,349	1,318	1,317	1,458	1,549	1,494	1,525	1,506	1,485
	自然増減数	-503	-534	-536	-537	-575	-726	-807	-756	-845	-782	-819
社会動態	県外からの転入者数	1,212	1,162	1,265	1,163	1,151	1,035	959	919	965	1,052	920
	県外への転出者数	1,349	1,412	1,423	1,192	1,163	1,091	1,118	1,237	1,152	1,180	1,108
	社会増減数	-137	-250	-158	-29	-12	-56	-159	-318	-187	-128	-188
増減数計		-640	-784	-694	-566	-587	-782	-966	-1,074	-1,032	-910	-1,007

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年は国勢調査人口（確定値）。

※2 平成27年11月1日以降の人口は、平成27年国勢調査人口（確定値 総務省統計局 平成28年10月26日）を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年が各々の前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

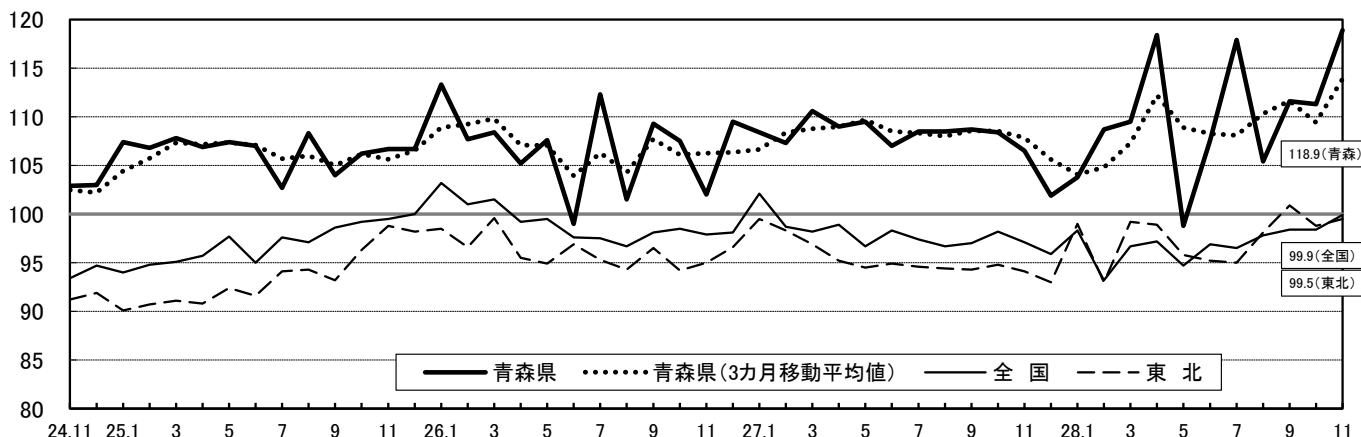
(2-1) 生産動向

平成28年11月の青森県鉱工業生産指数(平成22年=100)は、季節調整済指数が118.9で、前月比6.8%の上昇となり、2カ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は124.5で、前年同月比13.1%の上昇となり、6カ月連続で前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、生産用機械工業、業務用機械工業、電子部品・デバイス工業などが上昇に寄与した一方、化学工業、輸送機械工業、非鉄金属工業などが低下し、鉱工業全体では6.8%の上昇となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

(平成22年=100)

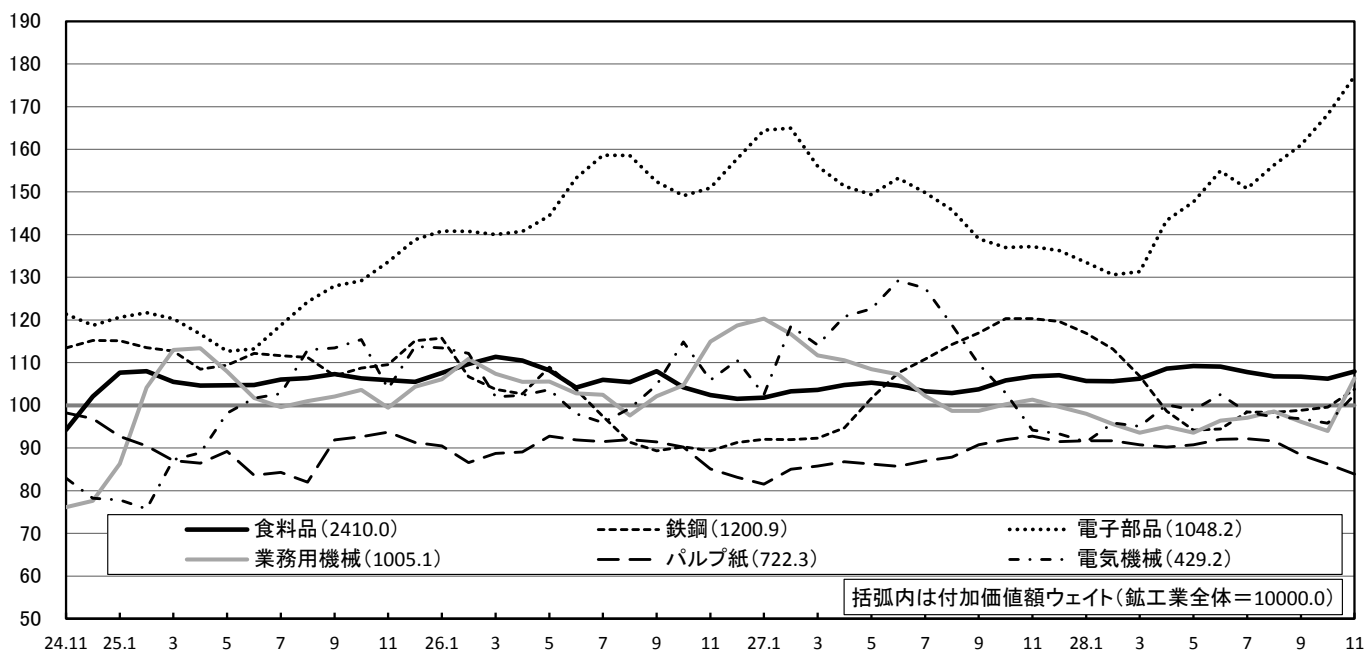


◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 6.8%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
生産用機械工業	170.9	53.6	化学工業	-33.7	-35.4
業務用機械工業	30.0	41.1	輸送機械工業	-30.0	-22.8
電子部品・デバイス工業	8.0	20.3	非鉄金属工業	-6.4	-3.3
金属製品工業	22.6	13.7	繊維工業	-5.1	-2.6
電気機械工業	18.5	10.3	パルプ・紙・紙加工品工業	-1.4	-1.2

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3カ月移動平均値)

(平成22年=100)



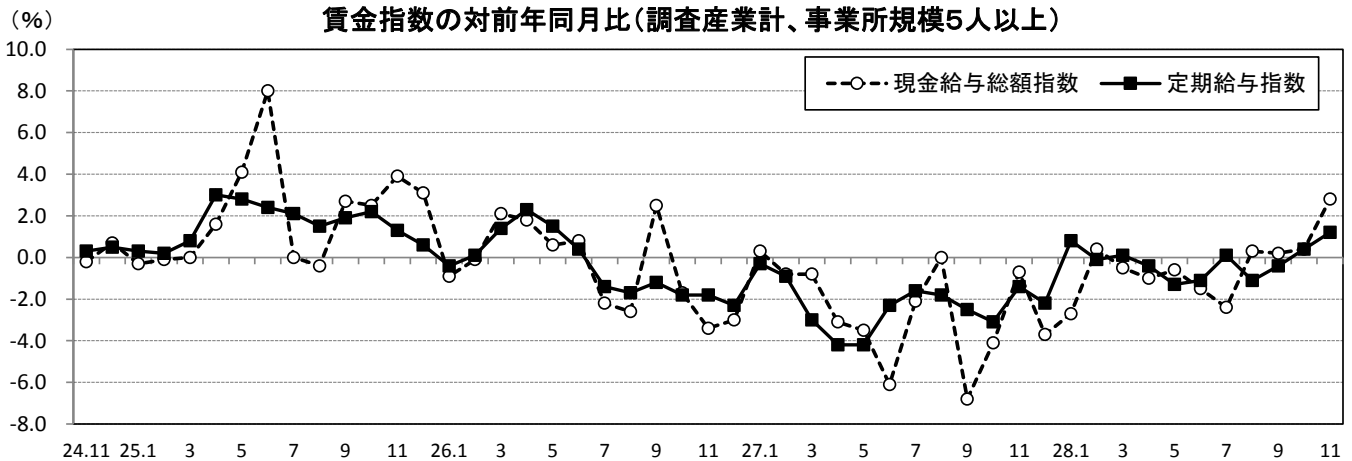
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用労働

(2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

平成28年11月の定期給与は219,950円で定期給与指数（平成22年=100）では99.9となり、前年同月比1.2%増と2カ月連続の増（現金給与総額230,649円、現金給与総額指数89.4、前年同月比2.8%増）となった。また、実額で比較した定期給与の全国対比は84.5となった。

総実労働時間は155.2時間で、総実労働時間指数は100.4となり、前年同月比0.5%減と8カ月連続の減となった。このうち、所定外労働時間は12.1時間で、所定外労働時間指数は133.0となり、前年同月比0.8%減と4カ月連続の減となった。



資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実数		指数(H22=100)		対前年同月増減率	
	県	全国	県	全国	県	全国
現金給与総額	230,649 円	275,497 円	89.4	87.0	2.8 %	0.5 %
定期給与	219,950 円	260,240 円	99.9	99.0	1.2 %	0.3 %
特別給与	10,699 円	15,257 円	—	—	—	2.0 %
総実労働時間	155.2 時間	145.3 時間	100.4	99.1	-0.5 %	-0.1 %
所定内労働時間	143.1 時間	134.2 時間	98.4	98.4	-0.4 %	-0.1 %
所定外労働時間	12.1 時間	11.1 時間	133.0	108.8	-0.8 %	-0.9 %

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

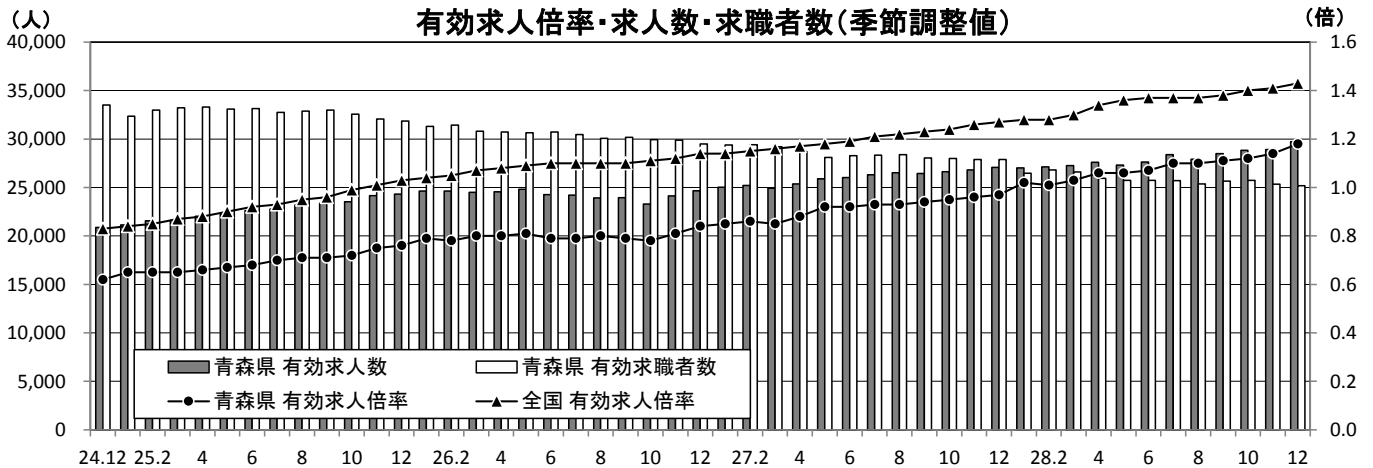
2.前年同月比は指数によって算出している。

3.平成22年1月分から、平成19年11月改訂の日本標準産業分類に基づいて結果の公表をしている。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

(2-2-2) 有効求人倍率

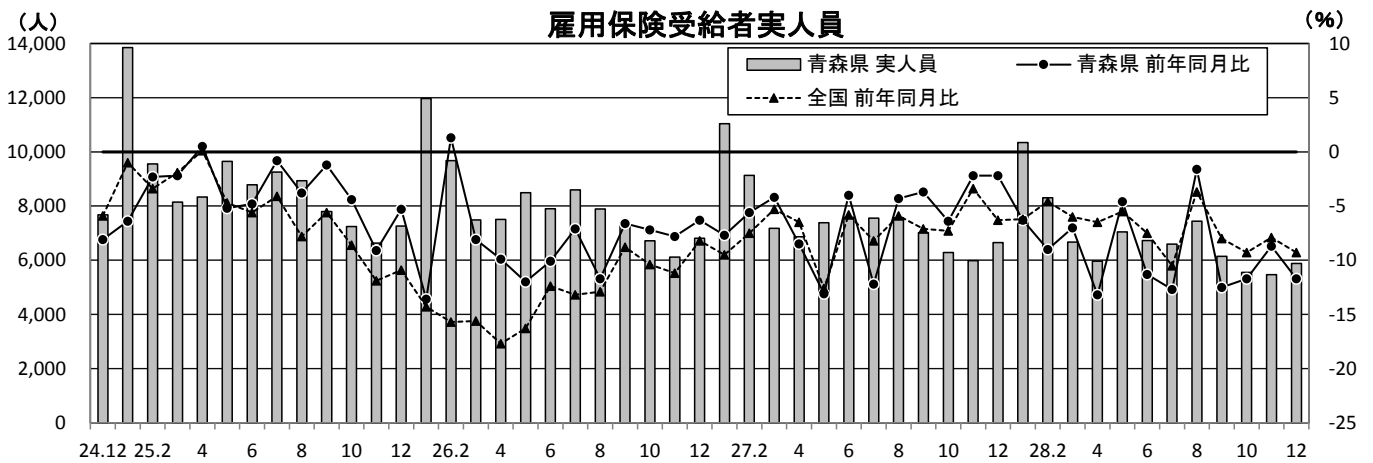
平成28年12月の有効求人倍率(季節調整値)は1.18倍で、前月を0.04ポイント上回り、過去最高となった。また、平成28年平均の有効求人倍率(原数値)は1.08倍で、前年を0.17ポイント上回り、過去最高となった。



資料: 青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

(2-2-3) 雇用保険受給者数

平成28年12月の雇用保険受給者実人員は5,878人で、前年同月比11.7%減となり、34カ月連続で前年同月を下回った。



資料: 青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」、厚生労働省「雇用保険事業月報」

(2-3) 物価

平成28年12月の青森市消費者物価指数(平成27年=100)は、総合指数が100.2となり、前月と比べ0.3%の上昇、前年同月と比べ0.7%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は100.2となり、前月と比べ0.7%の上昇、前年同月と比べ0.5%の上昇となった。

食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は100.5となり、前月と同水準、前年同月と比べ0.1%の上昇となった。

総合指数が前月と比べ0.3%の上昇となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道(他の光熱など)、交通・通信(自動車等関係費など)などの上昇が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ0.7%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料(生鮮野菜など)、光熱・水道(他の光熱など)などの上昇が要因となっている。

図1 総合指数の動き

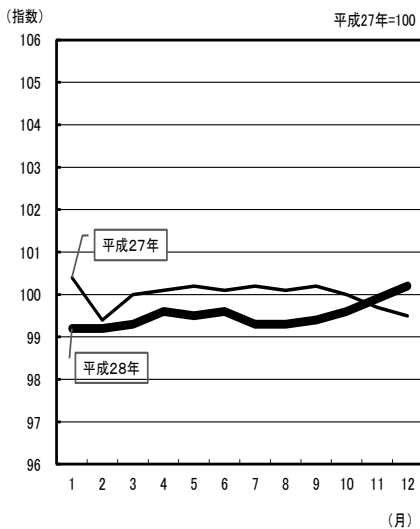


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

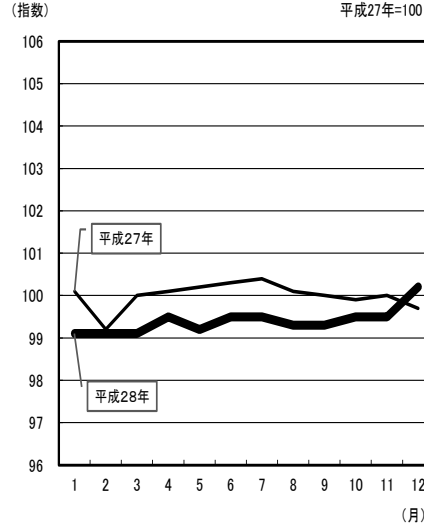
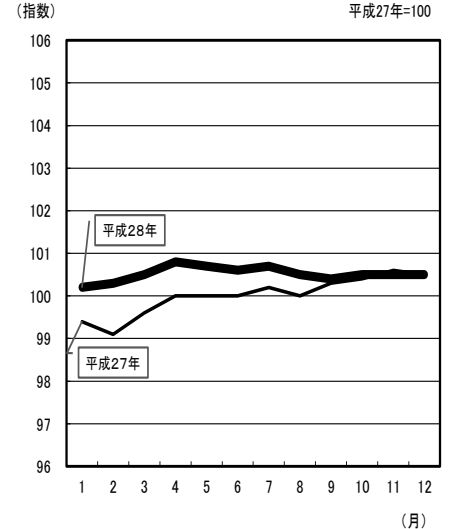


図3 食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成27年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の 帰属家賃を除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服履物	保健医療	交通・通信	教育	教娯	養楽	諸雑費
当月指数	100.2	100.2	100.2	100.5	102.1	99.5	100.1	94.9	102.4	102.1	100.3	98.1	102.0	101.4	101.0	
前月比(%)	0.3	0.7	0.3	0.0	▲1.4	▲7.2	0.0	5.2	1.0	▲0.5	0.1	1.1	0.0	▲0.3	0.3	
寄与度	—	0.64	0.27	0.02	▲0.40	▲0.37	▲0.01	0.52	0.04	▲0.02	0.00	0.14	0.00	▲0.03	0.02	
前年同月比(%)	0.7	0.5	0.9	0.1	2.2	4.8	▲0.3	0.6	0.4	1.2	▲0.1	▲1.1	1.6	1.0	0.5	
寄与度	—	0.44	0.71	0.03	0.60	0.22	▲0.06	0.06	0.02	0.04	0.00	▲0.14	0.04	0.08	0.03	

資料:県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

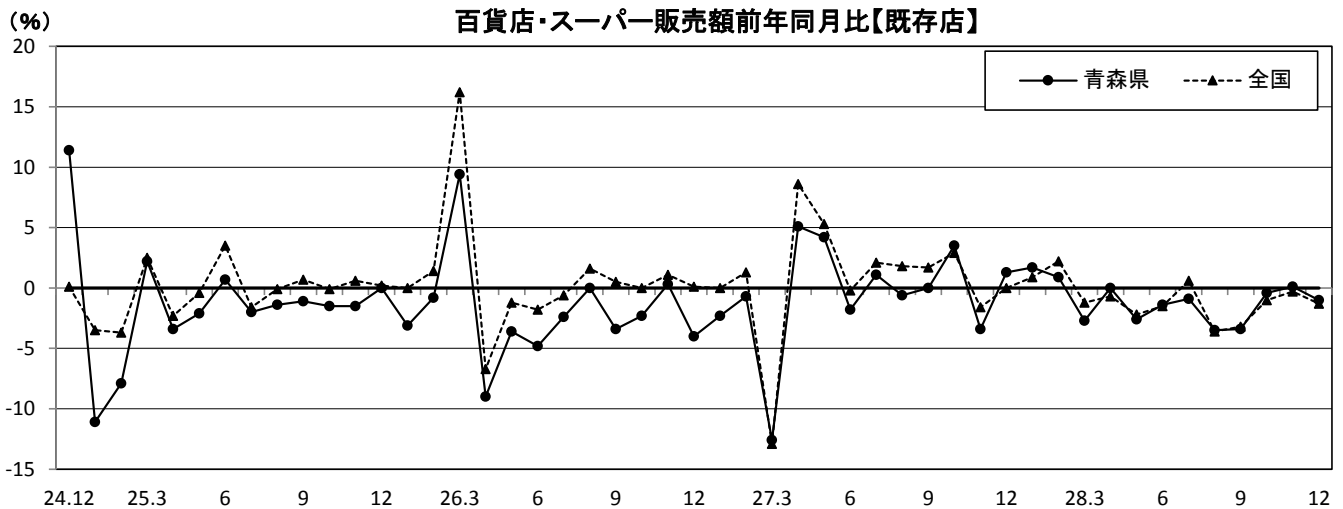
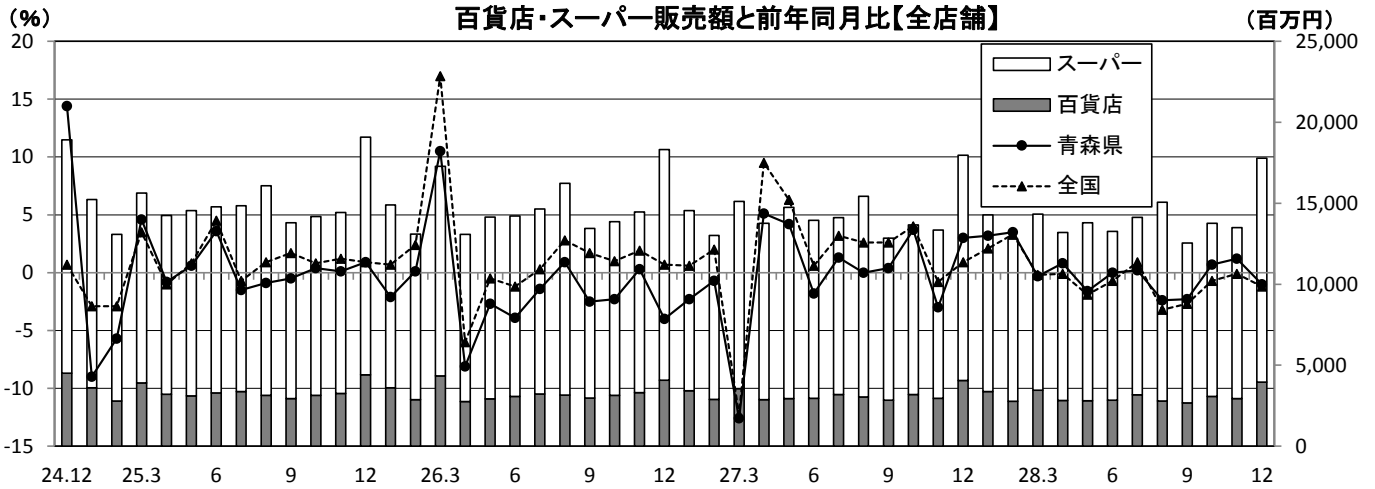
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

(2-4) 個人消費

(2-4-1) 百貨店・スーパー販売額

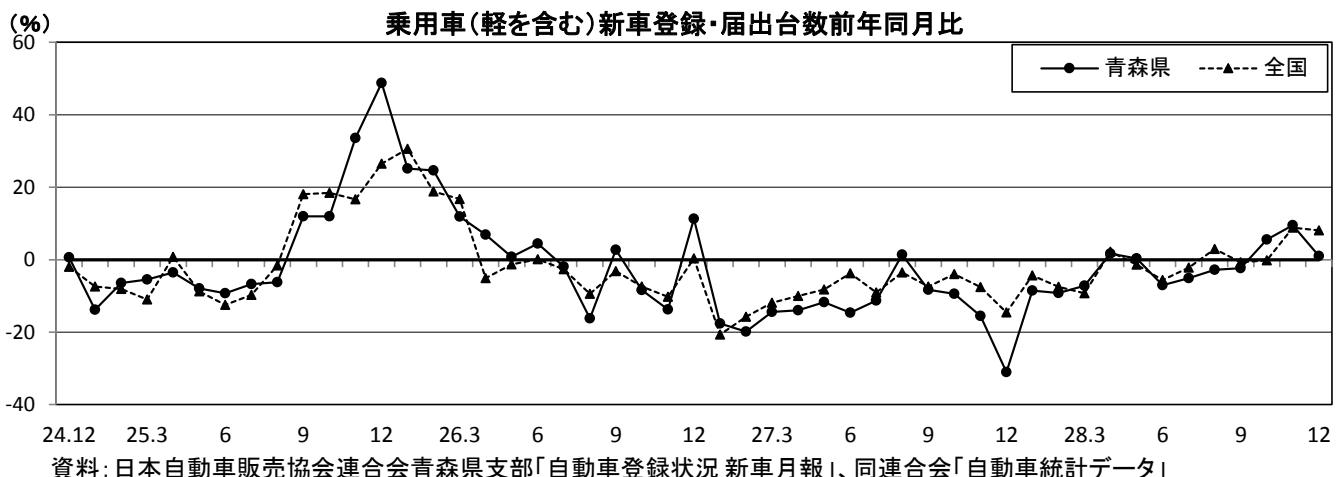
平成28年12月の百貨店・スーパー販売額は、全店舗ベースが178億円で前年同月比1.0%減となり、3カ月ぶりに前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比1.0%減となり、2カ月ぶりに前年同月を下回った。



* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。

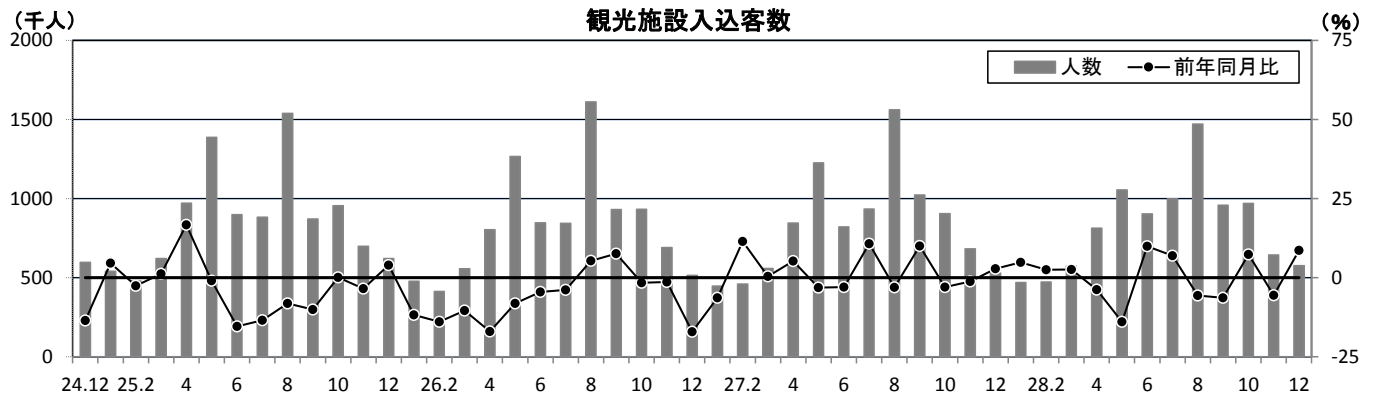
(2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

平成28年12月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は2,773台で、前年同月比1.0%増となり、3カ月連続で前年同月を上回った。小型車、軽乗用車が増加したことによる。

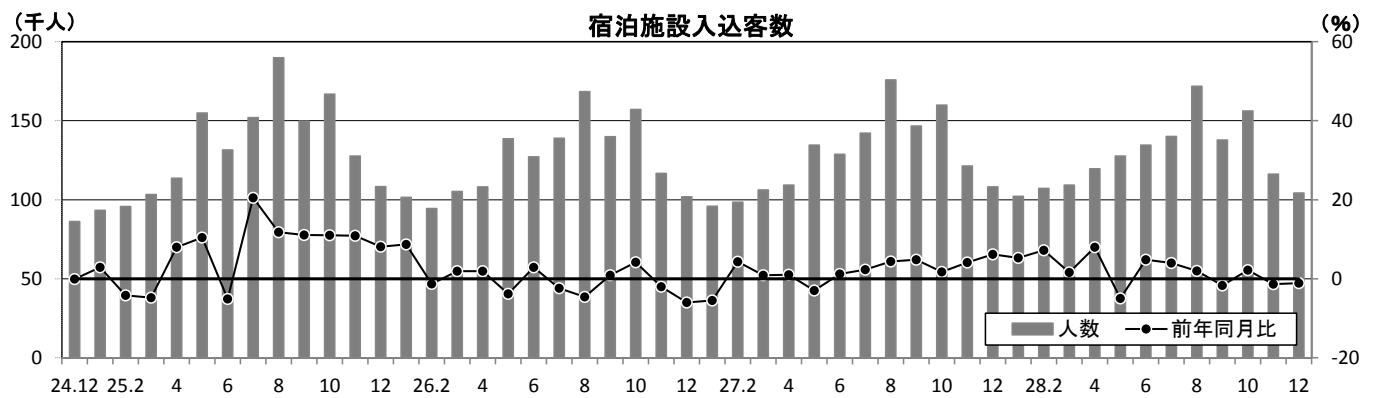


(2-4-3) 観光入込客数

平成28年12月の観光入込客数は、主な観光施設が575千人で前年同月比8.6%増となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った。また、主な宿泊施設は104千人で前年同月比1.1%減となり、2カ月連続で前年同月を下回った。観光施設は青森市、八戸市、弘前市等の施設で増加し、宿泊施設はむつ市、弘前市の施設で減少したことによる。



資料：県観光企画課「月例観光統計」※観光施設34施設（H24年1月～H26年3月は35施設、H26年4月以降は34施設対比）

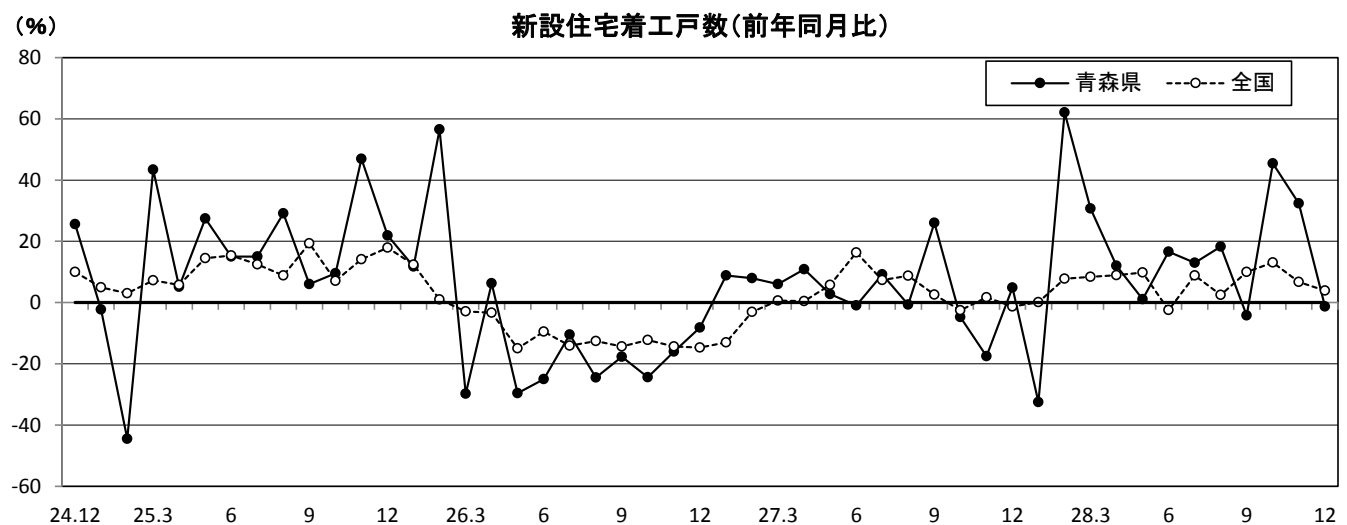


資料：県観光企画課「月例観光統計」※宿泊施設54施設（H24年1～3月は57施設、H24年4～9月は60施設、H24年10～11月は61施設、H24年12月～H26年3月は57施設、H26年4～12月は56施設、H27年1～12月は55施設、H28年1月以降は54施設、H28年7月以降は53施設対比）

(2-5) 建設

(2-5-1) 住宅建設

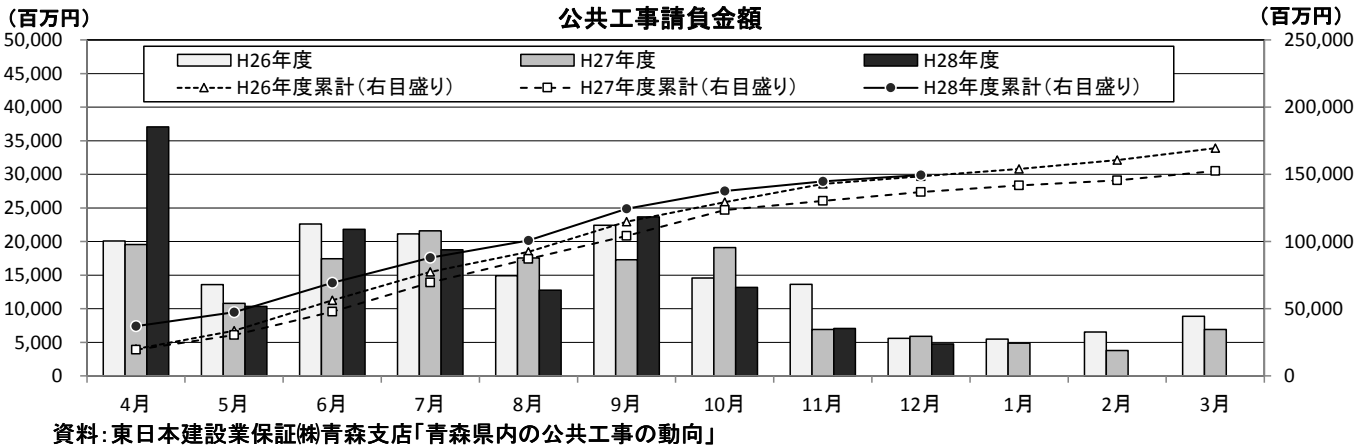
平成28年12月の新設住宅着工戸数は534戸で前年同月比1.3%減となり、3カ月ぶりに前年同月を下回った。貸家が減少したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

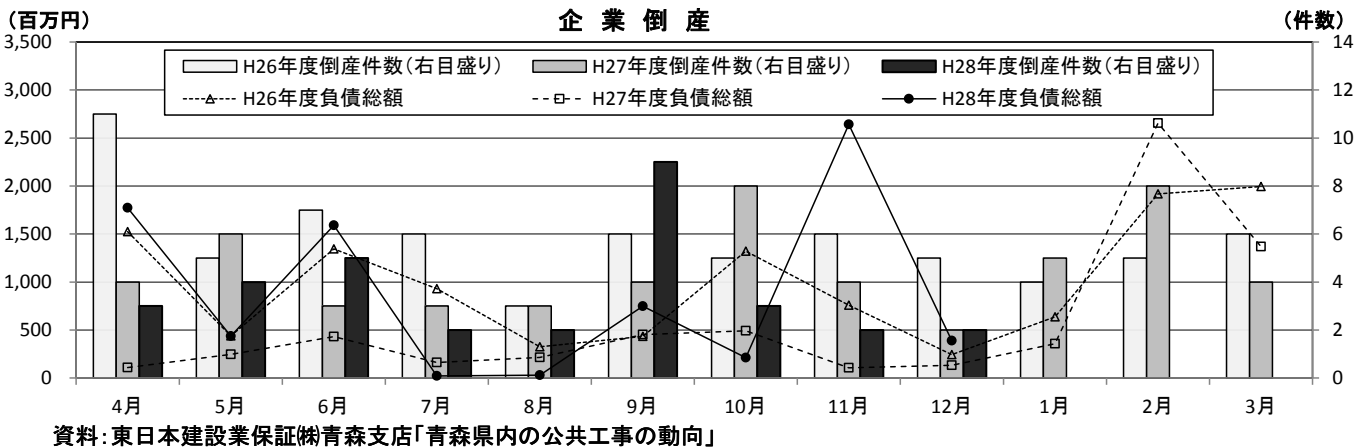
(2-5-2) 公共事業

平成28年12月の公共工事請負金額は47億6,300万円で前年同月比19.2%減となり、県、独立行政法人等、国の減少により2カ月ぶりに前年同月を下回った。また、12月までの累計金額は1,494億4,100万円で前年同期比9.7%増となった。



(2-6) 企業倒産

平成28年12月の企業倒産は、件数は2件で前年同月比での増減はなかった。負債総額は3億8,900万円で前年同月比194.7%増となった。負債総額は10億円を超える大型倒産の発生がなく、前月比では大幅な減少となったものの、前年同月比では増加となった。また、12月までの累計倒産件数は32件で前年同期比13.5%減、負債総額は78億4,700万円で前年同期比234.8%増となった。



(3) 青森県景気動向指数 ※系列データ不足のため、更新不可

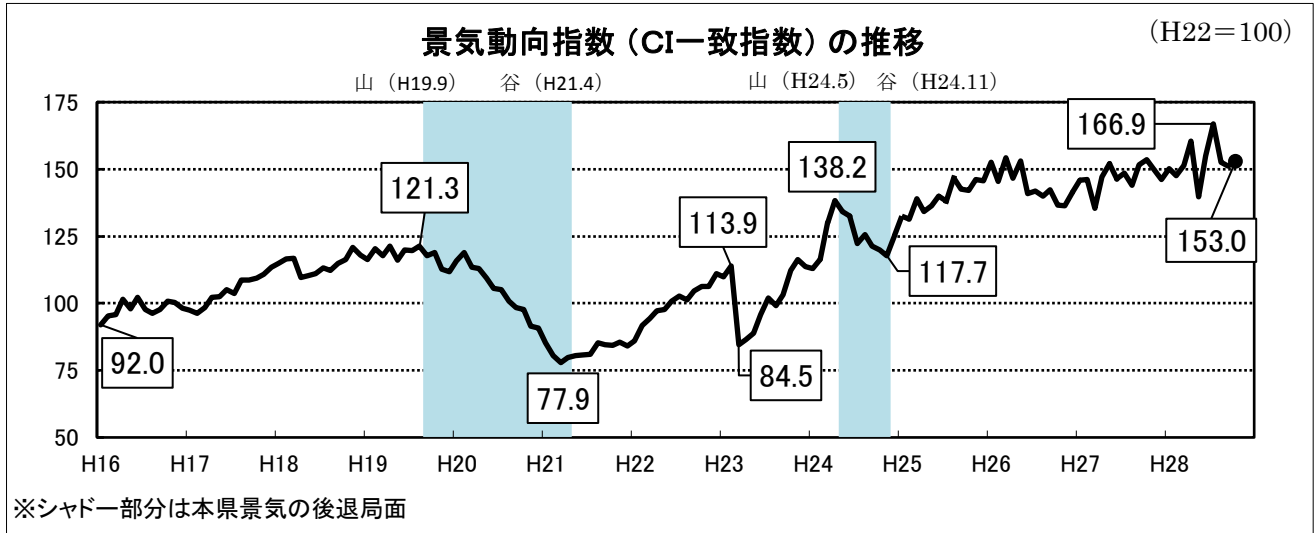
平成28年10月の青森県景気動向指数（CI）は、先行指数 107.6、一致指数 153.0、遅行指数 114.1 となった。

先行指数は、前月を 15.6 ポイント上回り、2 カ月ぶりに上昇した。

一致指数は、前月を 1.9 ポイント上回り、3 カ月ぶりに上昇した。

遅行指数は、前月を 1.3 ポイント上回り、2 カ月ぶりに上昇した。

10月の一致指数は雇用・流通関連の指標がプラスになったことから上昇した。



● 個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
新規求人倍率（全数）	5.66	3カ月ぶり	生産財生産指数	-0.47	3カ月ぶり
新設住宅着工床面積	2.65	2カ月ぶり			
企業倒産件数	2.39	2カ月ぶり			
乗用車新車登録届出台数	1.77	4カ月連続			
日経商品指数（42種）	1.56	4カ月連続			
中小企業景況DI	1.41	2カ月ぶり			
建築着工床面積	0.56	4カ月ぶり			
一致系列					
輸入通関実績（八戸港）	2.43	2カ月ぶり	投資財生産指数	-2.19	2カ月ぶり
百貨店・スーパー販売額（既存店）	1.44	3カ月ぶり	旅行取扱高	-0.75	2カ月連続
所定外労働時間指数（全産業）	1.16	3カ月ぶり	鉱工業生産指数	-0.17	2カ月ぶり
			有効求人倍率（全数）	-0.05	3カ月連続
遅行系列					
りんご消費地市場価格	2.92	2カ月ぶり	公共工事請負金額	-2.36	2カ月ぶり
家計消費支出（勤労者世帯：実質）	1.83	2カ月ぶり	常用雇用指数（全産業）	-2.26	3カ月連続
青森市消費者物価指数（総合）	1.09	3カ月連続	県内金融機関貸出残高	-0.32	4カ月連続
有効求職者数（全数）	0.32	3カ月ぶり			

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

(参考) 青森県景気動向指数（DI）

先行指数	68.8%	(2カ月ぶりに50%を上回った)
一致指数	100.0%	(3カ月ぶりに50%を上回った)
遅行指数	57.1%	(4カ月ぶりに50%を上回った)

(4) 青森県景気ウォッチャー調査 (平成29年1月期)

現状判断DIは、倒産件数の減少や人材採用に力を入れる企業の増加等から、前期比4.1ポイント増加の47.3となった。

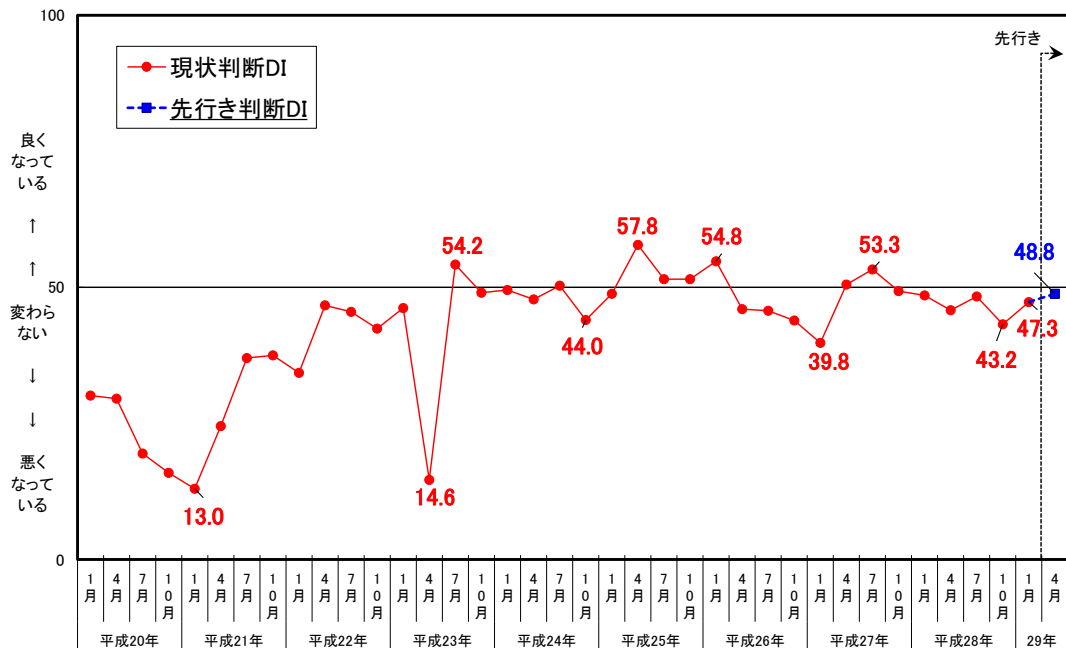
先行き判断DIは、消費動向に変化のない状態等から先行きに懸念があるものの、新生活や購入意欲の出始め等への期待感があることから、現状判断DIと比べて1.5ポイント増加の48.8となった。

3カ月前と比べた景気現状判断DIは、景気の横ばいを示す50を6期連続で下回った。

3カ月後の景気の先行き判断DIは、景気の横ばいを示す50を3期連続で下回った。

(調査期間 平成29年1月4日～1月13日 回答率100%)

景気現状判断DIの推移・今後の先行き判断DI



● 3カ月前と比べた景気現状判断

動向 前期調査と比べると、「良くなっている」が2.0ポイント増加、「やや良くなっている」が0.1ポイント減少、「変わらない」が10.5ポイント増加、「やや悪くなっている」が12.3ポイント減少、「悪くなっている」が0.1ポイント減少したことにより、全体では4.1ポイント増加の47.3となり、景気の横ばいを示す50を6期連続で下回った。

判断理由では、倒産件数の減少や人材採用に力を入れる企業の増加などプラス面をあげる声があった一方で、景気が良くなっている実感がない、季節商品の動きが鈍い、年末商戦の盛り上がり不足などといったマイナス面をあげる声があった。

地区別では、前期調査と比べて、下北地区を除く3地区でポイントが増加した。県南地区では景気の横ばいを示す50となった。

● 3カ月後の景気先行き判断

動向 前期調査と比べると、「良くなる」が1.0ポイント減少、「やや良くなる」が2.8ポイント増加、「変わらない」が3.6ポイント減少、「やや悪くなる」が4.8ポイント増加、「悪くなる」が3.1ポイント減少したことにより、全体では0.6ポイント増加の48.8となり、景気の横ばいを示す50を3期連続で下回った。

判断理由では、新生活の始まりや購入意欲の出始めなどに期待するという声があった一方で、世界経済の先行きに対する不透明感、消費動向に変化のない状態、円安の家計への影響などを懸念する声があった。

地区別では、前期調査と比べて、津軽地区を除く3地区でポイントが増加した。東青地区では景気の横ばいを示す50を上回った。

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

● 3カ月前と比べた景気の現状判断理由

- ◎ 一時期に比べ倒産などの件数が減少。人材採用や研修に力を入れる企業が増加しているように思われる。(人材派遣=県南)
- 客入数、売上共若干伸びつつあるため。(観光名所等=県南)
- コネクタ部品の受注が旺盛なため。(電気機械製造=津軽)
- 景気が良くなっている実感が無い。(旅行代理店=東青)
- 初売という一年を占う景況では、三が日は天候にも恵まれるなど、大型店を中心まずまずだったようです。しかし、それ以外ではこれといった好材料がなく、停滞しているように見受けられました。(商店街=東青)
- 衣料品のダウントレンドが継続している。特に年代の高い層において、この傾向は強いと思われる。(百貨店=津軽)
- 週末のお客様の入りはまずまずですが、平日に外食する人達が減ってきている。(レストラン=県南)
- 冬場は宿泊客が落ち込む時期ではあるが、ほぼ前年並で推移している。(都市型ホテル=下北)
- 特段の大きな事業がある訳ではなく、個人消費も伸びてはいない。(広告・デザイン=東青)
- 特に良い変化が見られない。(経営コンサルタント=津軽)
- 好転材料は何もないので、どちらとも言えない。少なくとも良くはなっていないと思う。(建設=県南)
- 特に消費動向に変化を感じないから。(食料品製造=下北)
- 有効求人倍率は良いかもしれないが、実感が無い。(新聞社求人広告=東青)
- △ 商品の売上が著しく低下している。(美容院=東青)
- △ 年末商戦において、高額商品の売数が減った。(スーパー=津軽)
- △ 降雪が少なく、季節商品の動きが鈍い様に感じる。(商店街=県南)
- × 年末商戦は盛り上がり欠けました。例年より雪が少なく来店しやすい天気だったと思うのですが。(一般小売店=下北)

● 3カ月後の景気の先行き判断理由

- ◎ 春にかけて、雇用にも変化が大きく出るため。(人材派遣=東青)
- 新生活が始まる頃なので、少しでも良くなると期待したい。(コンビニ=下北)
- 購入意欲が少し出てきているように思う。(食料品製造=東青)
- 暖冬がレストラン等の客足には良い結果となっているが、季節商品を扱っているお客様にとっては死活問題であり、雪が降らないことがプラス要因かマイナス要因か何とも言えない。(都市型ホテル=東青)
- 第一次、第二次産業の変化もなく、景気が良くなる部分は少ない。青森市の場合、降雪量での景気の変化もあると思われるが、1月の降雪量では判断できない。(スーパー=東青)
- 正月は天気も穏やかであったせいか、来客数もやや多かったが、この先と言えば、昨年から引き続き低いままの横ばい状態が続くと思います。(パチンコ=東青)
- 将来への不安からか高齢者も含めて全般的に財布の紐が固く、衣料品、服飾雑貨、生活用品等の高級品の動きが鈍く、食料品は低価格シフトが顕著で余分なものは買わないようになっているため。(百貨店=県南)
- 国内情勢よりも世界経済の先行きがやや不透明であり、読みづらい状況にある(米大統領、ヨーロッパ経済等)。(観光型ホテル・旅館=県南)
- 宿泊及び婚礼、宴会等の予約状況は例年と変わらず。(都市型ホテル=下北)
- 現在の経済状況の中で、良くなる、又は悪くなる要因が見当たらない。(飲料品製造=津軽)
- 昨秋から冬に確保して今後使用する原料の不漁・小型化による仕入れ価格上昇、規格変更で製品原価は上昇。販売価格は据え置きや競争見積もりさらされている現況に加え、輸入原料相場が為替相場で良くなるか悪くなるか予想できない。(食料品製造=県南)
- 特に消費動向に変化を感じないから。(食料品製造=下北)
- 好材料が見当たらない。(新聞社求人広告=東青)
- △ 低金利の影響でのメリットで住宅を建てる人達が一段落した様です。(住宅建設販売=津軽)
- △ 円安がこれ以上進んだ場合、相当家計が苦しくなり、それに伴い出費が抑えられ景気が悪くなるのではないかと懸念している。(一般飲食店=県南)
- △ 常勤職員の欠員後補充に非常勤で対応したいとの相談が顕著。安定した雇用が確保されないと实体经济は悪くなると思う。(人材派遣=津軽)
- × 地方経済、特に青森県や秋田県が人口減少等により悪化している。(一般小売店=津軽)

記号の意味: ◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」